

テーマ 『「おいしい信州ふーど（風土）」について考える』

開催日時・会場

- ✦ 平成24年10月22日（月）17時30分～19時30分
- ✦ 長野県諏訪合同庁舎 講堂

参加者

- ✦ 意見交換参加者 28名
県民：23名
県関係者：5名（阿部知事、進行役職員4名）
- ✦ 傍聴者 約10名



会場の様子など

日ごろ、信州産農畜産物の生産、加工、流通、消費などに携わるお仕事をしている県民の皆さんにお集まりいただき、県が進めている「おいしい信州ふーど（風土）」の認知度向上に向けて、北信での開催に続き2回目となる意見交換を行いました。

参加者の方から、地域のおいしい食材を用いた手作りの差し入れをいただきました。おにぎり、米粉パン、野沢菜漬け等を意見交換の合間に、参加・傍聴された皆さんと一緒にいただくことができました。

知事は、あいさつの中でこの取組にかける思いを、長野県の風土や長野県民の勤勉性が育ててきたものが今の長野県の食だということを、もっと我々はしっかりストーリーを持って伝えていかなければいけないだろうと思っています。生産者がどんな思いで作っているかということ伝えていくことによって、いろんな付加価値が生まれてくると思います。物を物として見るのではなく、物の裏にある人々の営みだとかストーリーをしっかりと一緒になって発信していくことができるような、「おいしい信州ふーど（風土）」でありたいなと思いますと語っていました。

参加者の主なご意見

参加者の皆さんからいただいたご意見・ご提言は、「おいしい信州ふーど（風土）」の認知度向上に向けた取組の中で活用させていただきます。

ここでは、いくつかのご意見等をご紹介します。

まず、宣伝不足について多くの指摘がなされました。良い食材がたくさんあるのに県民にも県外にも伝わっていない、地元の人が地元の食材を知らない、食べてみないことには勧められないなどの現状へのご指摘がありました。改善策として、主婦などに食べてもらい口コミで広める取組をすべきとか、子供たちへの食育が重要などのご意見がありました。おいしい信州ふーどのグルメ大会の開催などのアイデアもいただきました。

また、地産地消のための流通ルートがないため、地元の野菜を口にする機会がないので、流通ルート確保が必要というご意見がありました。

そのために、食の関係者の交流を深めること、生産者と消費者・小売りの距離感を縮めることが必要。食材の展示会や取扱業者の紹介、試食やレシピ紹介などが有効などといったご意見がありました。

また、欲しい人と作り手をつなげる中間者が必要とのご指摘もあり。県政へのご期待やご意見を多くいただきました。

